

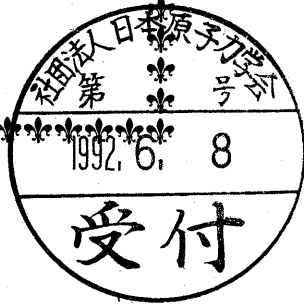
6/8 炉・物・理 2507



日本原子力学会・炉物理連絡会

# 炉物理連絡会ニュース (No. 17)

1992年6月8日発行



## 目次

第 49 回「炉物理連絡会」総会議事要旨 .....	1
学生・院生の炉物理夏期セミナー参加への古橋助成金のお知らせ .....	2
部会制導入に関する原子力学会への炉物理連絡会からの返答 .....	4
第 23 回「炉物理・夏期セミナー」の御案内 .....	5

### 第 49 回「炉物理連絡会」総会議事要旨

1992年3月29日(12:00~13:00) 於 東海大 原子力学会春の大会会場

はじめに、中沢正治前年度委員長の司会で平成4年度委員の承認が行われた。その後、関本博新委員長により議事が進められた。

#### (1) 平成4年度委員の選出

あらかじめ通知されていた候補者について、前年度委員長により承認の一括提案がなされ、拍手にて承認された。  
今年度委員は以下の通り。

- 委員長 関本博 (東工大・原子炉研)
- 副委員長 高橋亮人 (阪大・工・原子力)
- 企画 馬場護 (東北大・工・原子核)
- 企画 松山成男 (東北大・工・原子核)
- 総務 井口哲夫 (東大・工・原子力)
- 総務 小原徹 (東工大・原子炉研)
- 編集 神野郁夫 (京大・工・原子核)
- 編集 岩崎智彦 (東北大・工・原子核)

なお、幹事機関は東北大にお願いすることが

前総会において決定済みである。

#### (2) 平成3年度事業報告

- @第23回「炉物理・夏期セミナー」開催  
幹事校:東工大。  
河口湖畔管記念研修館にて。
- @「炉物理の研究」第41号発行
- @「連絡会ニュース」No. 15, 16発行

#### (3) 平成3年度(3.4.1~4.3.31)決算報告

古橋氏より、新たに150万円の寄付を戴いた。このため、平成3年度決算は、  
収入 3,003,810円 (含古橋基金 293,642円)  
支出 380,076円  
繰越 2,623,734円 (含古橋基金1,849,642円)  
となり、収入・繰越しが大幅に増えた。総会にてその収支報告があり、了承された。

### 1) 古橋基金の使い方

新たな150万円の寄付により、古橋基金が大いに増えた。これにより、年間8万円程度使用できる事となる。この使い方について、本会で以下の二つの案が出され、議論された。

#### A. 修士論文への賞

B. 夏期セミナーへの学生参加補助  
の二つの案について、「今年度限り」との件付きで採決が行われ、A案18票、B案0票となり、B案（学生の夏期セミナー参加補助）が採択された。また、実際の使い方については、事務局に一任いただく事になった。

### 2) 部会制導入についての議論

工藤和彦企画委員より、「核融合炉研究会からの学会理事宛の部会制導入の要望書」および「学会企画委員長からの各連絡会への部会制導入に関する検討依頼書」についての明がなされた。

その後、当連絡会で行われていた連絡会名の問題についてのアンケート結果のまとめ、関本委員長から紹介された。

その後の総会では、活発な討論が成された。加者の意見として、

@部会制の姿がわからない。

@連絡会との関係が不明。

@手続きが早急。

@学会全体の合意が必要。

どがあり、「部会制については具体的中身はつきりさせた上、じっくりした議論を待たすべきである」との意見が大勢であった。

学会からの意見伺いに対する返答は、この討論をふまえて、3月30日付けで学会に送付された。次ページにご連絡会委員長名の返答書全文を添付した。

### (6) 夏期セミナー

夏期セミナーについて、幹事機関より、8月5日（水）～8月8日（土）、宮城県川渡（かわたび）町・東北地区国立大学川渡セミナーセンター等の報告があった。（セミナーの詳細は本ニュース 5ページ以下をご覧ください。）

### (7) 企画委員会報告

工藤編集委員より、新しい科学研究費の炉物理関係の分類の紹介があった。新分類は以下の通り。

分科：エネルギー学

細目：原子力学

キーワード：原子炉物理

### (8) 編集委員会報告

代谷編集委員より、炉物理関係の部門関係記事があれば連絡が欲しいとの報告があった。また、和文誌は査読通過後から6カ月、欧文誌は3カ月ほどかかるので、できるだけ欧文誌への投稿をとのお願いがあった。

### (9) その他のアウツメント

阪大竹田氏より、ANS炉物理分科会が主催する比加会議（1996）についての紹介があった。

### 学生・院生の炉物理夏期セミナー参加への古橋助成金のお知らせ

平成4年度の第24回炉物理夏期セミナー参加する学生する学生・院生に対して古橋金より助成金が支給されますので応募して下さい。

支給を希望される人は、下記の様式に従って、名、在学大学名、学年、若手研究者発表会

での発表研究題目、指導教官の推薦文（署名捺印付き）を6月30日までに幹事機関（東北大・岩崎）宛お送り下さい。

被支給者及び支給額は炉物理連絡会役員と幹事機関で決めさせていただきます。

# 古橋助成金支給申込書

氏名		所属	
若手研究者発表会 発表題目			
推薦状			
指導教官 _____ 印			

## 炉物理連絡会会員募集中！

炉物理連絡会に入会ご希望の方は、年会費（正会員：1,500円、学生会員：1,000円）を添えて、直接、日本原子力学会事務局(TEL:03-3508-1261)までお申し込み下さい。

【編集後記】 本年は、東北大学工学部原子核工学科が増設されて30年にあたります。30周年を迎えた我が原子核工学科は、今、大きな変革の時期にさしかかっています。ご存知の方も多いと思いますが、大学では、教養部廃止・大学院大学・研究所見直しなど大きな動きが進行しております。「泥縄」的な面も見られますが、ここ数年で目に見えた形の変化が現れるものと思います。

原子力の世界で「30年」と言うと、「原子炉の寿命→廃炉」が思い出されます。この30年は、原子力にとっての第一世代でありました。安全で効率的な「原子炉」の技術が、この第一世代の間に確立し、また、同時に、その世代は、30年と言う年数によって原子炉の安全性を実証したものと思います。諸先輩のご努力・ご苦勞の賜であります。

しかし、急ぎすぎた面があったと思います。積み残されたものも多い様に思われます。建てるのは易いがローンの払いは厳しい。廃棄物問題など積み残された「つけ」などは、まさに「二世帯住宅」の感じさえします。これ

から、そのローンを払っていくのは、つらいものがあります。借りたものは返さなければなりません。少し皮肉な書き方になりましたが、原子力の創生期を生きてこられた方々をうらやましく思っているためです。ご勘弁を。

最後に、今進められている廃棄物処理方法について。また、急ぎ過ぎではありませんか。「ローン」を早く返そうと思って「サラ金」に手を出してはいけません。ここでの急ぎすぎは命取り、「つけ」は、着実に確実に返すべきです。これからの30年間で完納できれば良いと思います。そこで、私なりのローン返済の為の標語、安全な核サイクルを目指して

『TRU みんな燃やせば 恐くない』

炉物理ニュースの余白がありましたので、意見を書いてみました。お怒りの方々も多いと思います。その方々には、炉物理夏期セミナーにおいでの上、東北の地で、厳しいお叱りの言葉を直接戴きたい思います。

(夏期セミナー担当・東北大・岩崎智彦)

部会制に関する炉物理連絡会から学会への返答

平成4年3月30日

日本原子力学会

企画委員長 石樽 顕吉 殿

炉物理連絡会

委員長 関本 博

前略

平成4年3月25日付けの「部会制導入に関するお願い」の回答をさせていただきます。

炉物理連絡会におきましては、歴代の委員長及び多数の連絡会員を要している機関に対して炉物理連絡会の名称と今後の活動内容についてアンケートを取りました後（結果はそのままの形で「炉物理の研究」（第41号）に掲載しております。）、原子力学会年會に於ける連絡会總會で部会制導入に関しまして議論いたしました。その結果以下のような回答をさせていただきます。

部会制に移行することのメリット及び学会に及ぼす影響がはっきりしない現状においては、部会制移行への決定はできない。今後、この件に関しては、望ましい案を作成する方向で議論・検討を進める。

現在での結論は以上のようなものですが、以下アンケートや議論の中で感じられたことについて記させていただきます。

部会制導入は原子力学会のシステムの変更に関わる重要な問題と考えますので、核融合研究連絡会からの要望に対しましては、企画委員会に於かれまして慎重な審議をお願いいたします。また部会制の具体的なイメージが個々の会員でかなり違っております。個々の連絡会で望ましいありかたを議論すると同時に、企画委員会に於かれましても、できるだけ早い時期に、可能ないくつかの部会の具体的な形とそれらに関して考えられるメリット及びデメリットを明らかにしたものを示して下さるようお願いいたします。

草々

「炉物理連絡会」主催、大学教官協議会協賛  
第24回「炉物理・夏期セミナー」

恒例の炉物理夏期セミナーを下記のように開催いたします。今回は「炉物理計算における新技法・高度化」、「知的情報処理と原子力」及び「宇宙環境と放射線計測」の主テーマに関する講義や特別講演など、海外の講師も交え多彩な内容を予定しております。また、第3日の午後には間欠泉などで知られた「鳴子峡」への探勝ツアーなどの趣向も盛り込んでおります。多くの方々の参加を期待しております。

と き：1992年8月5日（水）～8月8日（土）

ところ：宮城県川渡（かわたび）町・東北地区国立大学川渡セミナーセンター

◎プログラム◎

（敬称略）

8月5日（水）

現地受付 12:30～ 開校式 13:00～

1. New Horizon of Reactor Physics Calculation (Ben-Gurion大) Y.Ronen
2. 燃焼計算手法の改良と最新照射後試験の解析 (東北大) 岩崎智彦

8月6日（木）

3. 知的情報処理とNeural Network (東北大) 北村正晴
4. 原子炉と医学 (東北大) 福田 寛
5. 原子炉設計計算コードの高度化(BWR) (東芝) 岩本達也
6. 原子炉設計計算コードの高度化(PWR) (MAPI) 田原義寿

若手研究者発表会（19:00～20:30）

8月7日（金）

7. 大気圏と放射線帯 (東北大) 中村尚司
8. 銀河系宇宙線 (宇宙研) 野分命

鳴子峡探勝ツアー（13:00～17:00）

9. フェルミの臨界から50年（19:00～20:30） (エネ総研) 大塚益比古

8月8日（土）

10. Genetic Algorithmの原子力への応用 (東大) 大橋弘忠
11. 自律型プラント概念の創設に向けて (動燃) 姫野嘉昭

閉校式（12:15～12:30）

◎参加費等

参加費	正会員 4,000円、	学生会員 2,000円
	非会員 6,000円、	学生非会員 3,000円
テキスト代	1,000円	
宿泊費(1泊3食付き)	2,500円	
懇親会費(8月5日)	2,500円	
鳴子探勝ツアー参加費	2,500円	

※鳴子探勝ツアーは、

(鳴子峡-こけし館コース)と(鳴子峡-地熱発電所コース)の  
2コースのどちらかを予定しております。

希望者の多いコースを選択したいので参加希望の方は申込用紙に  
コースを記入して下さい

◎申込方法

所定用紙に必要事項を記入し、下記に郵送またはFAXして下さい。

(用紙は「炉物理連絡会」会員の所属する機関に配布しますが、必要な方は下  
記に請求して下さい)

◎申込締切 6月30日(火)

◎申込・問い合わせ先

〒980 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉  
東北大学工学部原子核工学科  
「炉物理・夏期セミナー事務局」 岩崎智彦  
(TEL 022-222-1800(内線)4679; FAX 022-268-1539)